

週間展望・回顧(ポンド、加ドル)

September 3, 2021

加中銀、タカ派姿勢を維持するか

- ◆ポンド、景気回復の遅れが懸念され上値は重いか
- ◆カナダ中銀 (BOC)、政策を据え置きもタカ派姿勢を維持するか
- ◆加ドルの動きに影響は限られそうだが、加総選挙の行方にも注目

予想レンジ

ポンド円 149.00-153.50 円

加ドル円 85.00-88.50 円

9月6日週の展望

ポンドは底堅さを維持しながらも、上値の重い動きが続いている。足もとではポンド独自の手掛かりが乏しく、リスクセンチメントの変化やドルの動きに左右されやすい。英政府が7月にロックダウン解除に動いた後、コロナ感染者数は急速に増えてはいないものの、引き続き拡大傾向にある。ただ、ワクチン接種の進展で、感染者数は政府の予想範囲内にとどまっており、行動制限措置の再強化を決定する可能性は低い。

また、イングランド銀行 (BOE) は8月の会合で物価上昇は一時的との見方を維持するも、経済の回復が予想通りに進展した場合、「ある程度緩やかな引き締めが必要になる」との見解を示した。BOE が金融政策正常化を進める方針を示したことから、経済活動の正常化が引き続きポンドの支えとなる。ただ、最近の英経済指標では景気回復のペースが予想ほど強くないことも示されており、ポンドの上値も重い。英8月製造業購買担当者景気指数 (PMI) 改定値は60.3と速報値の60.1からやや上方修正されたものの、6カ月ぶりの低水準となった。原料不足、船舶輸送の遅れ、港の渋滞、ブレグジット、物流業界の人手不足がサプライヤーの遅れにつながっている。

加ドルは、原油価格の下落やリスクオフの円買いによる下振れ圧力の高まりが警戒される中、8日のカナダ中銀 (BOC) の金融政策会合でタカ派姿勢を維持するかどうか注目している。10月会合で「景気・物価見通し」の見直しを行う予定であり、9月会合での政策変更は見込めない。市場では10月会合で資産買い入れ額の一段の減額に踏み切ることが見込まれている。4-6月期カナダGDPは前期比-1.1%と予想外のマイナスとなったが、7月消費者物価指数 (CPI) は前年比+3.7%と2011年5月以来の大幅な伸びとなり、BOCの「一時的な物価上昇が続く」との見通しに沿った内容となった。最近の加経済指標はおおむね良好な結果となり、BOCはタカ派姿勢を維持すると見込まれている。中銀の姿勢が加ドルのサポートになりそうだ。

また、加ドルの動きに大きな影響はなさそうだが、20日に予定されている総選挙も注目されている。トルドー首相率いる与党・自由党はワクチン接種率の高さや、景気回復が進んでいることをアピール材料に単独過半数確保を狙っているが、最近の世論調査では自由党と最大野党・保守党の支持率が拮抗している。コロナ感染の拡大が続いている中での総選挙実施に批判的な見方の国民も少なくないようだ。自由党が敗北すれば、大型財政出動の可能性が低くなる。

8月30日週の回顧

週末の米雇用統計の発表を控え、相場全体の方向感が鈍い中、株価や米金利の動きを眺めながら小幅の上下にとどまっている。リスクオンのドル売り・円売りがやや優勢となる中、ポンドドルは1.38ドル半ば、ポンド円は152円前半まで小幅高となった。加ドルは4-6月期GDPが予想外のマイナスとなったことから売られやすい状況のなか、原油高を支えにドル/加ドルは1.26加ドル半ば、加ドル円は86円後半で加ドル売りが一服した。(了)